

令和8（2026）年度5月「歳時記」

5月の空気には、どこか背中をそっと押してくれるような軽やかさがあります。長い冬を越え、ゴールデンウィークのにぎわいが過ぎるころ、季節は暦の上で立夏を迎えます。山々の緑は日ごとに濃さを増し、陽射しには初夏の力強さが宿りはじめます。田んぼでは苗が風に揺れ、川面にはきらめく光が踊ります。

さらに月の後半には、万物が次第に満ちていくとされる小満が訪れます。草木は勢いを増し、虫たちも活動を始め、生命の気配が一段と濃くなる頃です。

そんな季節の移ろいを感じつつ、ふと筆をとり、「つれづれなる折り」に身のまわりの風景や心の揺れを記してみるのもよいものです。

今月の古典は、鎌倉時代の初めに書かれたとされる文学評論「無名草子」の一節です。著者は明確ではありませんが、藤原俊成の女ではないかと言われていいます。「無名草子」は、物語や和歌を中心に、特に女性作家の作品を女性の立場から批評しています。

<古文>

この世に、いかでかかることありけむと、めでたくおぼゆることは、文こそはべれな。「枕草子」に返す返す申して侍るめれば、こと新しく申すに及ばねど、なほいとめでたきものなり。はるかなる世界にかき離れて、幾年あひ見ぬ人なれど、文といふものだに見つれば、ただ今さし向かひたる心地して、なかなか、うち向かひては思ふほども続けやらぬ心の色もあらはし、言はまほしきことをもこまごまと書き尽くしたるを見る心地は、めづらしく、うれしく、あひ向かひたるに劣りてやはある。

つれづれなる折、昔の人の文出でたるは、ただその折の心地して、いみじくうれしくこそおぼゆれ。まして亡き人などの書きたるやうなるものなど見るは、いみじくあはれに、年月の多く積もりたるも、ただ今筆うちぬらして書きたるやうなるこそ、返す返すめでたけれ。

何事も、たださし向かひたるほどの情ばかりにてこそはべるに、これは、た

だ昔ながら、つゆ変はることなきも、いとめでたきことなり。

＜口語（現代語）訳＞

この世に、どうしてこんなことがあったのだろうと、すばらしく思われることは、手紙ですよ。「枕草子」に繰り返し述べているようですので、今さら改めて申すまでもないですが、それでもやはりとてもすばらしいものです。遠い土地にかけ離れて、何年も会っていない人でも、その人の書いた手紙を目にするだけで、たった今向かい合っているように感じられて、かえって、直接顔を合わせでは意のままに表現できないこともあるが、手紙には言いたいことが細かく書き尽くされていて、それを読むと不思議に嬉しく、面と向かい合っているのに劣ってはいません。

何もすることがないときに、昔の知り合いの書いた手紙が出てくると、ただその当時の気持ちがそのまま伝わってきて、とても嬉しく感じられます。まして亡くなった人の書いたものを見ると、いっそうしみじみとした気持ちになります。長い年月が経っているのに、まるで今筆をとって書いたかのように思えるのが、何度見てもありがたいものです。

どんなことでも、ただ向かい合っている間の情感だけですが、これは、全く昔のまま、少しも変わらないという点もまた、非常にすばらしいことです。

私も、今年のゴールウィークには、「文」をしたためてみようと考えています。といっても、多くの方が想像されているような手書きの長い手紙ではなく、SNSを利用した短いものにはなりそうですが…。皆さんも、「つれづれなる折り」に「文」などいかがでしょうか。

それでは練習問題です。皆さん、ぜひチャレンジしてみてください。

＜問題＞

問1 筆者が「文」を「めでたきもの」と感じる理由として最も適切なものを選びましょう。

ア 手紙はめったに届かない珍しいものであるから。

イ 遠く離れて会えない人の心が、今まさに目の前にいるように感じられるから。

ウ 亡くなった人の手紙は必ず悲しい内容だから

エ 昔の人の筆跡が美しいから

問2 「ただ今さし向かひたる心地して」とありますが、「さし向かひたる心地」とはどのような気持ちを表しているか、最も適切なものを選びましょう。

ア 相手が目の前に座って話しているような気持ち。

イ 相手と争っているような気持ち。

ウ 相手の気持ちが理解できず戸惑う気持ち。

エ 相手のことを忘れてしまったような気持ち。

問3 「返す返すめでたけれ」とありますが、この表現が示す筆者の気持ちとして最も適切なものを選びましょう。

ア 何度思い返しても素晴らしいと感じる。

イ 何度も書き直してようやく満足した。

ウ 何度も読み返すのが面倒だ。

エ 何度読んでも内容が理解できない。

問4 筆者は「亡き人などの書きたるやうなるもの」を見ると、どのような気持ちになると述べていますか。古文の内容に合うものを選びましょう。

ア 年月が経っていても、まるで今書いたかのように感じられ、深い感慨を覚える。

イ 亡くなった人の手紙は読むと不吉だと感じる。

ウ 亡くなった人の筆跡は古く感じられ、時代の隔たりを強く意識する。

エ 昔の手紙は内容が難しく、読むのが苦痛である。

<解答>

問1 イ 問2 ア 問3 ア 問4 ア